

歴史とまちづくり活動の経緯

1. 地区の概要

当協議会がある岩手県花巻市高松第三行政区は、地区の南側を猿ヶ石川が流れ、居住地を里山が囲む純農村地帯である。

東北新幹線JR新花巻駅まで車で10分、花巻空港や高速道花巻空港インターチェンジまで15分と、比較的交通の便に恵まれたところである。

2. 活動の経緯

<景観形成>

もともと自然豊かな地区ではあったが、燃料が薪から灯油に変わった1980年頃から次第に山林も荒廃してきて景観的にも問題となっていた。

当時の住民有志（40代）が、「人が手を加えなくなり、荒廃している猿ヶ石川を昔のきれいな川にしよう」と呼びかけたのが景観形成活動の始まりであった。以来、40年ほど続く活動が今日につながっている。

活動の継続はさまざまな成果となって表れている。一番は「景色がいいので移住を決めました」といって移住した世帯が10世帯、Uターン世帯が2世帯あるということ。これは、行政区内全体（66世帯）の約20%を占めるまでになっている。

また、地区内に2軒あるレストランの存在も大きく、関係人口の創出に大きな役割を果たしてくれている。

先輩たちが築いてきた歴史は、「景観は地域の誇り」として今につながっている。

<地域づくり>

2007年頃、少子高齢化が進み活力が低下していく農村部を象徴する「限界集落」という言葉が流行ったときに行政区内の有志が「このままでは本当に限界集落になってしまう」と2008年に行政区内全世帯（66世帯）を会員とした地域づくり団体「高松第三行政区ふるさと地域協議会」を設立。

以来、「6次産業化」や「農福連携」、「景観形成」、「郷土芸能の伝承」などに取り組んでいる。このような活動を続けることにより、行政区内に活気が生まれ外部との交流も活発になって来た。

<ふるさと地域協議会を支える連携団体>

2008年のふるさと地域協議会設立以来、活動を応援する連携団体が次第に増えてきており、現在8団体まで増えている。連携団体は下記のとおり。

（花巻市、花巻中央地域包括支援センター、花巻市社会福祉協議会、岩手県立大学、東北福祉大学、やさわの園、やさわこども園、JAいわて花巻）